

幅広い適用へ評価項目案示す

総合評価方式

中小規模
工事で

信頼、地域性等を評価

国土交通省は27日、公共工事における総合評価方式活用検討委員会(委員長・小澤一雅東京大学大学院教授)を開き、中小規模の工事も含め、より幅広く総合評価方式を適用するための評価項目案などを示した。工事規模が小さく、技術的難易度が高く、地域貢献度など、企業信頼性(経営事項審査総合評定値、工事成績、優良工事表彰など)や、「企業の地域性」(近隣地域での施工実績、地域貢献度など)を評価することを提示した。

来月の「木蔭」欄 担当者決まる

7月の木蔭は次の2氏が担当します。

◇6日(水)、20日(水)

関 憲一氏

(国土交通省九州地方整備局鹿児島港湾・空港整備事務所長)

◇13日(水)、27日(水)

中尾 五十三氏

(社団法人鹿児島県治山林道協会技監)

案。また、技術評価点の考え方については、従来10点としている加算点の満点(標準的な点数)を10と50点とし、技術評価点の割合を高める考えを提示した。

総合評価拡大で想定する評価項目

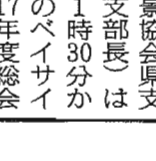
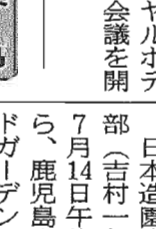
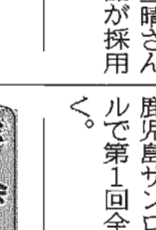
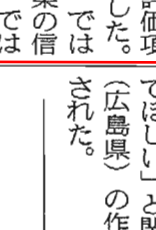
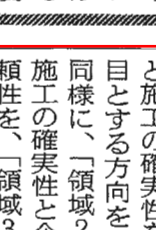
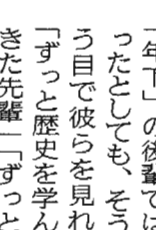
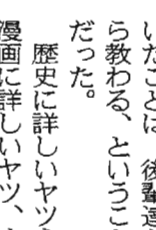
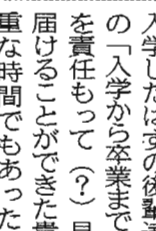
発注者のニーズ	評価の視点	考えられる評価項目	適用工事
企業の技術力	コスト	総合的なコストに関する事項 ①ライフサイクルコスト ②その他(補償費等)	領域1
	性能・機能	工事事務物の性能、機能に関する事項	
	社会的要請	社会的要請に関する事項 ①環境の維持 ②交通の確保 ③特別な安全対策 ④省資源対策またはリサイクル対策	
施工の確実性	施工計画	工程管理に係る技術的所見(工程表) 施工上の課題に係る技術的所見 施工上の配慮すべき事項	領域2
	技術者の施工能力	技術者の専門技術力 当該工事の理解度・取り組み姿勢 技術者のコミュニケーション力	
企業の信頼性	経営力	経営事項審査総合評定値 同種・類似工事の施工実績 工事成績 配置予定技術者の資格 優良工事表彰 関連分野での技術開発の実績	領域3
	技術力	地域内の拠点の有無 近隣地域での施工実績 災害協定等による地域貢献の実績 ボランティア活動による地域貢献の実績 障害者の雇用状況 男女共同参画の状況 地産品の使用状況	
企業の地域性	地域精通度 地域貢献度		

適用を視野に入れる。また、ガイドラインを参考に、今回事業の総合評価項目案

「右図参照」では、工事を規模と難易度によって、①規模が小さく、難易度も高くない「領域1」、②規模が大きい、難易度も高くない「領域2」、③規模が小さく、難易度も高くない「領域3」の三つに分類。さらに、評価の視点として、企業の技術力、施工の確実性、企業の信頼性、企業の地域性の四つに分け、「領域1」の工事は、企業の技術力と施工の確実性を評価項目とする方向を示した。同様に、「領域2」では、施工の確実性と企業の信頼性を、「領域3」では、施工の確実性と企業の信頼性、企業の地域性を評価項目とすることを提案した。



宮野 幸岳



先輩は後輩

学生寮に住みながら学校に通った経験のある人はどれくらいいるか。私は高校を卒業し大学へと進学する際に、やっと親の元を放れることができたという若者特有の期待を抱いていたのだが、入学と同時に住み始めたのは、多いときには3人1部屋の相部屋生活という学生寮であった。

平成という年号になってはいたものの、その学生寮の中では時間が止まっているかのようだった。おそろしく同じ世代の方々が想像する「(私の)親父の世代」の下宿風景と同じように、廊下には焼酎瓶が

学生寮という性格上、遠くは北海道や沖縄県から入寮してきた仲間達と暮らしていたのだ。私の場合は卒業まで他人の倍の時間をかけたこともあり、本来は出会うはずもなかったが、うまく伝えられなかったことでもあった。

先輩という性格上、遠くは北海道や沖縄県から入寮してきた仲間達と暮らしていたのだ。私の場合は卒業まで他人の倍の時間をかけたこともあり、本来は出会うはずもなかったが、うまく伝えられなかったことでもあった。

来月1日、曾於市で

県建設業青年部会(米盛直樹部会長)は、7月の「愛の血液助け合い運動(県赤十字血液センター主催)」の期間中、献血ボランティア活動を行う。

来月6日、県地方

港湾審計画部会

来月4日

県地方港湾審計画部会が7月6日午後2時から、市街地部

来月14日

県建設業青年部会(米盛直樹部会長)は、7月の「愛の血液助け合い運動(県赤十字血液センター主催)」の期間中、献血ボランティア活動を行う。

来月14日

県建設業青年部会(米盛直樹部会長)は、7月の「愛の血液助け合い運動(県赤十字血液センター主催)」の期間中、献血ボランティア活動を行う。

新技術活用評価委員会

あす、福岡市で

九州地方整備局は、産学官の有識者により構成される新技術活用評価委員会の「第1回委員会」を30日、福岡市のホテルセントラザ博多で開く。

同委員会は、公共工事等への有用な新技術の活用促進を図ることを目的として、新たに「公共工事等における新技術活用システム」を導入。これにもとづく組織として、新技術活用評価委員会を設置し、新技術の活用促進や評価対象技術の審査を行うもの。第1回委員会では、評価対象技術として、軟弱地盤処理工(MITS工法・CMSシステム)など6技術を審査する。

審査予定技術は次の通り。

- ▽軟弱地盤処理工(MITS工法・CMSシステム)(株富士建)
- ▽同IIダブルミキシング工法(ダブルミキシング工法研究会)
- ▽同III超軟弱土固化処理工法マッドミキサーM-I型(株セリタ建設)
- ▽同IV同M-II型(同)
- ▽法面工II土壌菌工法(藤武産業(株))
- ▽水質浄化IIミラクルソル水質浄化システム(日本建設技術(株))

の交通混雑緩和促進を目的とする17年度「鹿児島県東西・南北幹線道路建設促進期成会総会」を7月4日午前10時30分から、鹿児島市のパレスイン鹿児島で開く。

来月14日

日本造園修景協会県支部(吉村一朗支部長)は、7月14日午後1時30分から、鹿児島市のベイサイドガーデンで17年度総会を開く。なお、総会終了後は研修会並びに交流会も開かれる。